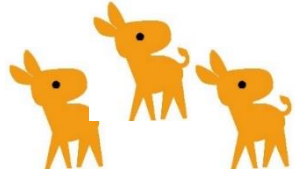


「チームオレンジ」への協力をお願い ～認知症になっても 安心して暮らせる まちづくりに向けて～

ひとりではなく、地域の中で
サポーター同士がチームとして活動しよう



伝えたいこと



- 令和元年6月に国から認知症施策推進大綱により、認知症の取組について「共生」と「予防」を基本的な考え方とすることが示されました。
- 本市においても、「共生」と「予防」を基本的な考え方とし、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに向けて取り組んでいます。
- ちょっとした見守りや声かけにより、認知症の本人を孤立させず、誰もが社会の一員として生活が送れるよう、行政や専門職だけではなく、地域住民やスーパー・金融機関等、社会全体として、認知症に関する理解を広めるとともに、個々の取組だけではなく、地域の取組を互いに知り、地域が一体的に活動するチームづくりを進めます。
- 現場で活躍する専門職の経験や知恵を少しずつ持ち寄り、地域住民が中心となって活動するチームづくりに協力をお願いします。
- 認知症の本人を置き去りにしないよう、認知症のご本人が思いを語れる環境づくりや、声を集める取組に協力をお願いします。

目次

1.国の認知症施策

2.甲府市の取組 チームオレンジの設置に向けて

3. 他市町村の取組事例（チームオレンジ・本人発信）

4.事業者の皆さまにお願いしたいこと

1. 国の動き

甲府市においても、
「共生」と「予防」を
基本的な考えとし、
認知症の方本人も含め、
人と人、人と社会をつな
げる取組を目指します。



認知症施策推進大綱(概要)(令和元年6月18日認知症施策推進関係閣僚会議決定)



【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」※を車の両輪として施策を推進

※1 「共生」とは、認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きるという意味

※2 「予防」とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味

コンセプト

- 認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることなども含め、多くの人にとって身近なものとなっている。
- 生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望を持って前を向き、力を活かしていくことで極力それを減らし、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会を目指す。
- 運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持等が、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防に関するエビデンスを収集・普及し、正しい理解に基づき、予防を含めた認知症への「備え」としての取組を促す。結果として70歳代での発症を10年間で1歳遅らせることを目指す。また、認知症の発症や進行の仕組みの解明や予防法・診断法・治療法等の研究開発を進める。

具体的な施策の5つの柱

- ① 普及啓発・本人発信支援
 - ・企業・職域での認知症サポーター養成の推進
 - ・「認知症とともに生きる希望宣言」の展開 等
- ② 予防
 - ・高齢者等が身近で通える場「通いの場」の拡充
 - ・エビデンスの収集・普及 等
- ③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
 - ・早期発見・早期対応の体制の質の向上、連携強化
 - ・家族教室や家族同士のピア活動等の推進 等
- ④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援
 - ・認知症になっても利用しやすい生活環境づくり
 - ・企業認証・表彰の仕組みの検討
 - ・社会参加活動等の推進 等
- ⑤ 研究開発・産業促進・国際展開
 - ・薬剤治験に即応できるコホートの構築 等

認知症の人や家族の視点の重視

認知症施策推進大綱 抜粋 (令和元年6月18日 認知症施策推進関係閣僚会議決定)

第2 具体的な施策

1. 普及啓発・本人発信支援

【基本的考え方】

認知症に関する正しい知識と理解を持って、地域や職域で認知症の人や家族を手助けする認知症サポーターの養成を進めるとともに、生活環境の中で認知症の人と関わる機会が多いことが想定される小売業・金融機関・公共交通機関等の従業員等向けの養成講座の開催の機会の拡大や、学校教育等における認知症の人などを含む高齢者への理解の推進、地域の高齢者等の保健医療・介護等に関する総合相談窓口である地域包括支援センター及び認知症疾患医療センターの周知の強化に取り組む。

(1) 認知症に関する理解促進

- 認知症に関する正しい知識を持って、地域や職域で認知症の人や家族を手助けする認知症サポーターの養成を引き続き推進する。
特に、認知症の人と地域で関わる機会が多いことが想定される小売業・金融機関・公共交通機関等の従業員等をはじめ、人格形成の重要な時期である子供・学生に対する養成講座を拡大する。
- 地域や職域などで行われている、創意工夫を凝らした先進的な認知症サポーターの取組事例を全国に紹介する。また、認知症サポーター養成講座を修了した者が復習も兼ねて学習する機会を設け、座学だけでなくサポーター同士の発表・討議も含めた、より実際の活動につなげるための講座（以下「ステップアップ講座」という。）の開催機会を拡大する。

4. 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

(1) 「認知症バリアフリー」の推進

⑤地域支援体制の強化

- 認知症サポーターの量的な拡大を図ることに加え、今後は養成するだけでなく、できる範囲で手助けを行うという活動の任意性は維持しつつ、ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等が支援チームを作り、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組み（「チームオレンジ」）を地域ごとに構築する。

2. 甲府市の取組

- ・ 認知症サポーター養成講座実施
 - ➡ 認知症サポーターの養成による認知症の理解の普及啓発
- ・ 認知症サポーターステップアップ講座実施
 - ➡ 地域の中で活躍する認知症サポーター（オレンジサポーター）の育成
 - ➡ オレンジサポーターの登録
- ・ 認知症地域支援推進員（地域包括支援センター）を中心に話し合い
 - ➡ 地域ごとの仲間づくり
 - ➡ 認知症の本人の声を集める
- ・ チームオレンジの設置

地域住民、企業等職域サポーター、専門職等

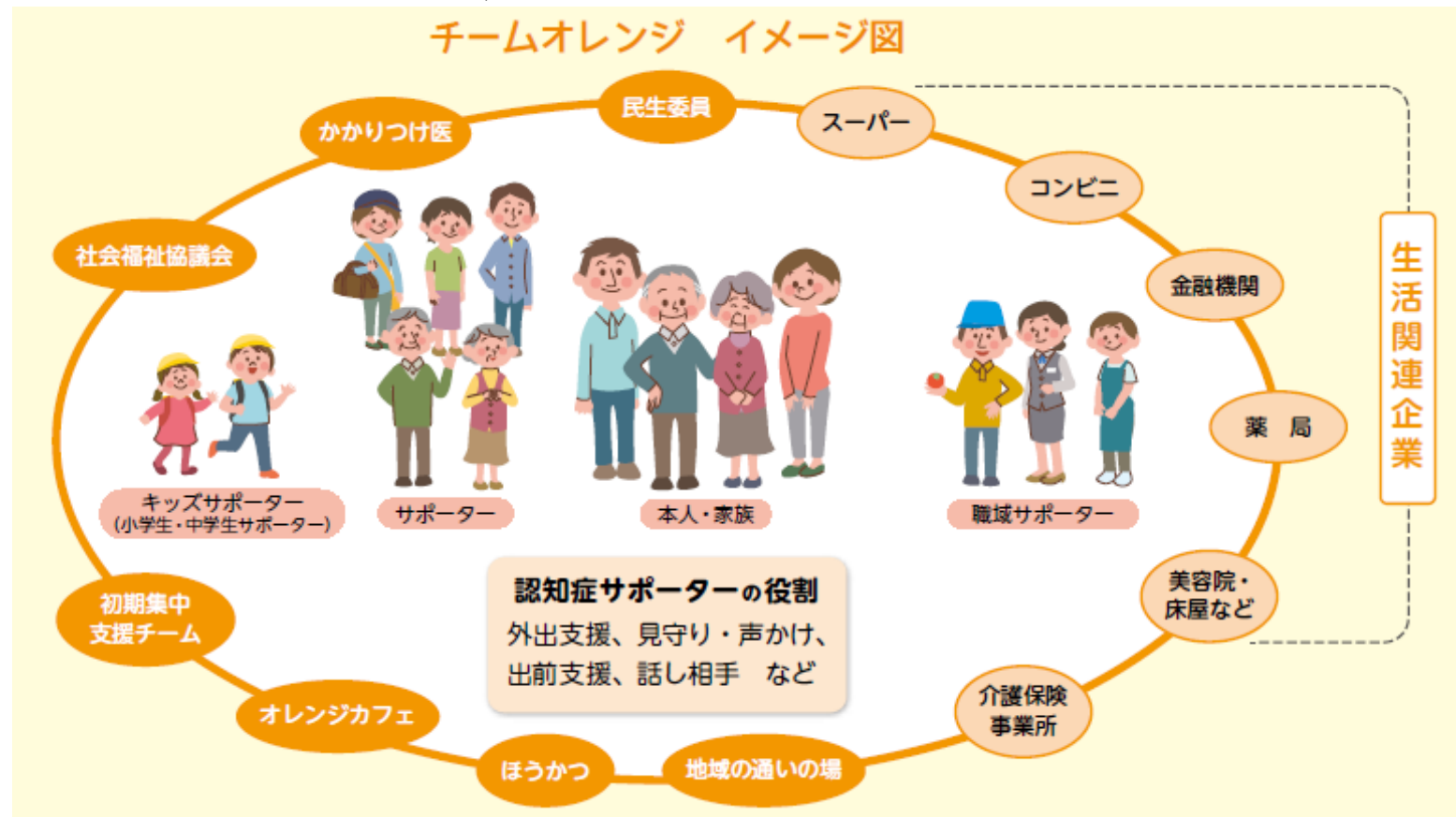
2. 甲府市の取組 チームオレンジの設置に向けて

・チームオレンジとは

認知症の本人や家族が抱える困りごとと地域の認知症サポーターをつなぐ取組です。近隣の認知症サポーターがチームを組んで、認知症の本人や家族を支えます。

認知症の本人やその家族もチームの一員となり、関係機関や生活関連企業と一緒に、みんながやりたいことやできることを増やしていける地域づくりを進めていきます。

認知症の人の「やりたい」「できる」を
地域でささえる チームオレンジ



3. 他市町村の取組

認知症サポーターの活動事例

- ◆ 先進的に認知症サポーターの活動促進に取り組んでいる自治体では、チームを組んだ認知症サポーターによる見守りや認知症カフェへの参加、傾聴、外出支援など地域のニーズに応じた多様な活動が展開されている。

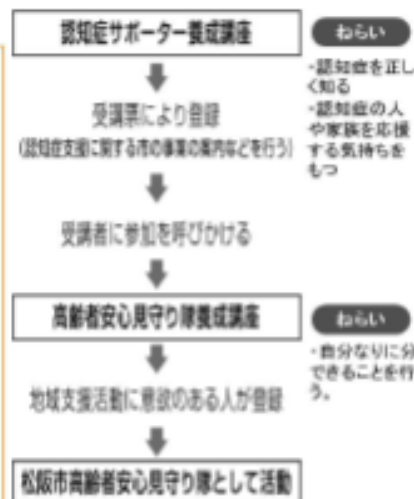
三重県松坂市の取組

900人の意欲ある「高齢者安心見守り隊」の自主活動

- 認知症サポーター養成講座修了者に呼びかけ、「高齢者安心見守り隊養成講座」を開催し、地域での活動に意欲のある人を見守り隊に登録。
- 現在900人の「高齢者安心見守り隊」が、自分たちにできることを自主的に実施。

高齢者安心見守り隊の活動

- 認知症サポーターが自分なりにやれることを自然なかたちで実施。
 - ・ 認知症地域資源マップづくり。
 - ・ 見守り、声かけ、ごみ出し支援、傾聴、外出支援。
 - ・ 通所施設、入所施設等の行事への協力。
 - ・ サポーターがいる店舗の表示。(店舗にステッカー貼付)
 - ・ キッズサポーター講座への協力。(寸劇の手伝い)
 - ・ 介護予防教室等への協力。
 - ・ オレンジカフェのサポート。
 - ・ SOSネットワークへの参加。(見守り・声かけ訓練)
 - ・ カーテンがしまったままの家、新聞受けに新聞があふれている家、様子のおかしい人、具合の悪そうな人を発見した場合、地域包括支援センターへ連絡。



認知症サポーター ステップアップ講座「教材3」(NPO 法人地域ケア連携ネットワーク 全国キャラバン・ナイト 連絡協議会)を基に作成

先進事例の横展開により全国に普及

神奈川県の実践

オレンジパートナーのしくみ

① 認知症サポーター養成講座

認知症サポーター

神奈川県内の45万人(2022年)の認知症について正しく理解し、偏見を持たず認知症の人や家族に対して温かい目で見守るの者



② オレンジパートナー研修受講

オレンジパートナー研修

午前 認知症に関する講話
・ 認知症の医学的知識
・ 認知症の人との接し方
・ 行先における認知症対策



午後 実習

・ 認知症の方及びその家族への具体的な接し方についてグループワーク
・ 登録と今後の活動について

③ オレンジパートナー登録

オレンジパートナー

オレンジパートナー研修を修了し、ボランティアとして登録する。



④ ボランティア活動

地域の認知症事業に積極的に参加し、活動する。

活動イメージ

- 市町村の認知症地域支援推進員との連携
- 認知症カフェでの話し相手や手伝い
- 認知症の人や家族の会、行政(市町村など)が実施するイベントの手伝い
- 地域で実施する研修会(認知症サポーター)への参加

活動団体



認知症カフェ

認知症の人やその家族、介護者や地域住民が集う場として、交流や情報交換をします。



認知症の人からのメッセージ動画 ～「希望の道」認知症とともに歩いていこう～

- 令和2年度に厚労省において、全国7人の認知症の人が、自らの希望を語り、地域の中でそれを実際に叶えながら生き生きと過ごしている姿を伝える動画を作成

URL: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/ninchi/kibou.html

認知症の人からのメッセージ

【前を向いて、出会い、つながる。そこに「希望の道」がある。認知症とともに歩いていこう。】

「希望大使」や「認知症の人と家族の会」に協力いただき、全国の認知症の人が自分らしく前向きに認知症とともに生きていく姿を取材しました。

オリジナル動画（45秒）



前を向いて、出会い、つながる。そこに「希望の道」がある。
認知症とともに歩いていこう。

「希望大使」や「認知症の人と家族の会」に協力いただき、全国の認知症の人が自分らしく前向きに認知症とともに生きていく姿を取材しました。

- ・北海道地区（取材中）
- ・東北地区（取材中）
- ・関東信越地区（神奈川県藤沢市 望月省吾さん）
- ・東海北陸地区（取材中）
- ・近畿地区（京都府京都市 下坂厚さん）
- ・中国四国地区（取材中）
- ・九州地区（取材中）

下坂厚さんのメッセージ



大手鮮魚店で働いていた下坂厚さんが若年性アルツハイマー型認知症と診断されたのは46歳のとき。現在は高齢者を支える仕事と趣味の写真撮影に生きがいを見出し、充実した毎日を送っています。写真の腕前はプロ顔負け。当事者目線の情報を日々発信しています。

診断受けた直後はもう、やっぱり誰とも会いたくないとか、何もしたくない、というのがちょっと続いたんですけども。こちらの西院デイサービスというところで、一緒に仕事しませんかという話をいただいて、まだまだできることもあるなと思って、うん、がんばろうかなと思いました。

認知症になってもまだまだできることもあるし、じゃあじぶんらしく生きていけるにはどうしたらいいのかなというのを自分なりに写真とかでアピールというか公表できたかなと。

外に出て元気に働けるといいことが、やっぱり充実しているなと思います。

望月省吾さんのメッセージ



長く医薬品メーカーに勤めていた藤沢市の望月省吾さん。趣味は、大学進学後夢中になったマンダリン演奏。出向先のファイナリーで学んだ経験を活かし、自ら参加している認知症当事者の会ではワイン講座を開催しています。

認知症ってね、要するに皆さんがまだよくわかってないんですよね。とにかくなるようにしかならないっていう感じですよ。

人によっては、言ってみれば真綿で触れるようなね。そんな扱いをしてくれる方もおられたですよ。だけどそれでこちらの神経がさわるってこともないし、なんでそんなに気を遣っているのかなって。全然考えるに至らなかったですよ。

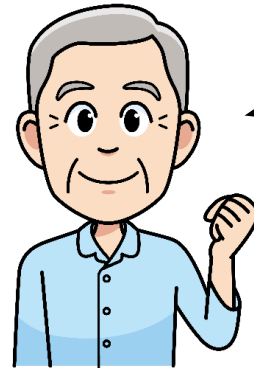
自分ができること、自分が楽しめることをやって、皆さんもなんとなく幸せな気分になってくれるんですよ。こんな幸せなことってないと思いますね。



認知症になっても、できることを社会の中で活かして、自分らしく生活が続ける。認知症の方が言葉にしやすい環境をつくる。

認知症の本人と家族は
ほんのちょっとだけ手伝ってもらいたい
でも、できることは社会の一員として活躍したい
という思いがあります

私が（家族）ちょっと買い物に行く間
だけ、見守ってもらえると、助かるん
だけだな。



市役所から届く通知が難しくて
よくわからない。ちょっと見て
教えてもらえたらなあ。

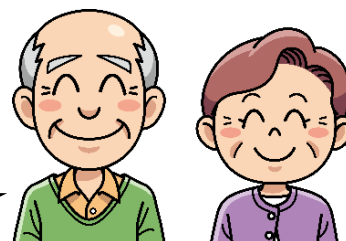
忘れっぽくなってしまったけれど、
できるだけ自分ができていることを続けたい。
得意なことを活かしたい。

地域住民はボランティア活動の 機会を探しています

認知症サポーターの養成講座を受けたけど、何かできることはないかな。

自分ができる範囲で、無理なく、誰かの役に立てることがあるかな。

登下校の時や遊んでいる時に、迷っていそうな高齢者の方を見たら、声をかけることができるかもしれない。



まだまだ身体を動かせる。時間もある。多少のことなら、何かできることをやろうかな。



空きスペースがあるけれど、集いの場等に活用してもらえたらいいかな。

企業として、専門職として 知ってること、地域でできることはありますか

急がせないで、後ろを気にせず、
ゆっくり会計できる専用カウン
ターを作ることにはできるかな。



スーパーに高齢者や認知症の方が来店
したら、オレンジサポーターと一緒に、
買い物支援ができるといいな。



〔研修のスキルを活かす〕

- ・ 認知症介護実践者
- ・ 認知症介護実践リーダー
- ・ 認知症介護指導者
- ・ 認知症サポート医 等



認知症の方の対応の仕方や困った時に
相談にのることができるかな。

薬の飲み方や副作用について、専門職とし
てアドバイスすることができるかな。

4. 事業者の皆さまにお願いしたいこと

- ・ 地域住民が中心となって活動できるチームづくり
 - ➡ 認知症地域支援推進員と、住民と企業、専門職等が互いの活動を知り、協力し合うチームづくりを一緒に考える
- ・ 認知症サポーター等が行うボランティアの活躍支援
 - ➡ 専門性を活かして、地域のサポーターを支援する
 - ➡ 事業所として地域に開かれたつながりの場の提供（チーム拠点等）
- ・ 認知症の本人が思いを語れる環境づくり
 - ➡ 認知症の本人を置き去りにしないよう、安心して思いを語れる場をつくる
- ・ 認知症の本人の声を発信する
 - ➡ 認知症の本人の声を聞き、認知症地域支援推進員に集める

認知症地域支援推進員と一緒に チームづくりを進める（例）



スケジュール
を決める

実態把握

チームオレン
ジ立ち上げ

ステップアッ
プ講座

- ・開始時期
- ・設置個所
（活動拠点）
- ・設置予定年度
- ・地域

- ・設置する地域の概況
- ・認知症の本人・家族の
状況把握
- ・チーム構成員候補者等
の把握（見込み人数）

- ・チームオレンジの編成
（チーム名、活動エリア、
リーダー、副リーダー、サ
ポーター数）

- ・ステップアップ講座の
実施

認知症になっても 安心して暮らせる まちづくりに向けて

- 地域でできることを教えてください。
- 認知症地域支援推進員を中心に、地域の中で
一体的につながっていきましょう。
- 認知症の本人や家族の一番近くにいる専門職が、
本人の声を聞いて、本人の強みを生活の中で活かせるように、
チームオレンジに認知症の本人も含めましょう。

